

車いす&メンテナンス技術講習会

神奈川工科大学車いす修理屋（KWR）

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030 神奈川工科大学内

助成事業の概要

目的は3つある。1. 台湾で車いすを点検、修理、輸送により不具合があるか情報収集すること。2. 現地台湾ボランティアの方に修理技術を伝え、現地の方々のみで修理ができるようにすること。3. 車いす利用者に車いす適合を行った上で車いすを寄贈すること。車いすの正しい使い方をすることで、骨の変形など今後の生活に支障をきたすような副作用を防止する。

今回は、8月17日（金）～8月21日（火）に台湾で活動をした。活動内容は、私たち神奈川工科大学車いす修理屋（KWR）と新潟医療福祉大学義肢装具自立支援学科（FWS）が協力し合い、現地で車いす修理を行った。台湾には26台の車いすを寄贈した。

活動2日目と3日目は、老人ホームで修理を行った。ここでは、多くの高齢者の方と通訳の方を通して車いすの簡単な修理方法や相手の方の身体の状態など、コミュニケーションを図りながら修理を行った。

活動4日目は、障がい者施設での修理を行った。ここでは、身体の不自由な方に対してリクライニング型の車いすの組み立て方を通訳の方を通して伝え、そのまま相手の方に引き渡した。

事業の成果

現地の方への修理講習は、ジェスチャーや通訳の方を通して修理方法を伝え、4日間での活動を通して合計26台を高齢者の方々や障がい者の方々

に引き渡すことができた。

活動2日目は、老人ホームで修理会を行った。高齢者の方々の使用環境、身体状況を把握した上で、利用者に適応した車いすを選択し、数台の車いすを寄贈した。

活動3日目は、2日目とは違う老人ホームで修理会を行った。初めて車いすに乗る方や、車いすを目の前に感激する方も多くいた。利用者の使用環境、身体状況に適応した車いすの選択・及び身体への適合評価を行い、こちらでも数台の車いすを引き渡すことができた。

活動4日目は、障がい者施設で修理会を行った。リクライニング型車いすの適合者がいたため、そのご家族の方にこの車いすの組み立て方を通訳の方を通して伝え、そのまま引き渡すことができた。

適合評価の際は、アンケートのようなものを使用した。言語の壁があったが、通訳さんを通じて車いすの使用方法を伝えたり、ジェスチャーを使ったり、片言の英語で話したり、精一杯適合をした。車いすを初めて使用する方にとっては、どのような車いすでも受け取りたいという気持ちが大変強いということを感じた。しかし、どんな車いすでも寄贈できればいいという考えは私たちにはない。何故なら、身体に合わない車いすを使用することで、病気の悪化につながってしまうからである。

一例として、片足の無い方が車いすを乗り続けることで足の筋肉が弱くなってしまふ恐れがある。そのような方には、車いすを長く乗り続けられないようにと伝えている。

本プロジェクトは、高校生は勿論、輸送会社や

現地のボランティアの方々など多くの方が関わっている。私達大学生ボランティアは、工業高校生に修理技術を伝えること、彼らが一生懸命清掃した車いすを、無事に利用者まで届けられるようにと活動している。さらに、現地まで赴いて、実際にどのような方に届いているのか調査をする。今回のように、一人でも多くの方が身体にあう車いすに乗れるように活動している。

現地の環境を実際に見たり、体験したりすることでプロジェクトの参加者は、この活動を継続することの必要性を感じ、また寄贈後のフォローや適合の難しさなど今後の課題も実感できた。

成果の広報・公表

1. 台湾の活動の写真を全社協アジア研修生の方々に配信。
2. 新潟医療福祉大学FWSが学会で発表。
3. 神奈川工科大学KWRは、学園祭で発表。
4. KWRのFacebook・Twitterページにて活動写真掲載。

今後の展開

病院で質問したデータを集めて今後の諸外国で活動する際、どのような車いすを求めているのか、患者の症状の割合など、適合の参考になるようにしたいと考えている。

従来の活動では、車いすの修理と寄贈のみを目的としていたが、今回は適合までを目的をしたことで今後のプロジェクト活動の目的を大きく変えることができた。

私達が実際に車いすの適合を行うことで、利用者の今後の生活に支障をきたすような新たな病気を防止することが可能となった。これにより、ただ単に車いすを寄贈するよりも、さらに意味のある「寄贈」ができるのではないかと考えた。

今後も利用者の属性と車いすの種類データを収集していきたいと考えている。これは、諸外国での活動においても、現地で必要とされている車いすの種類や属性を認識することに繋がるのではないだろうか。

まだまだ、アジアもしくは世界では車いすが必要とする人がいる。私達が実際に現地へ赴き、直接利用者の車いすを適合することで、その方の生活を少しでもサポートすることが出来るのではと考えている。